

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300102		
法人名	社会福祉法人日岳会		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	熊本県宇城市小川町南部田597		
自己評価作成日	令和6年 1月 30日	評価結果市町村報告日	令和6年 3月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様一人ひとりの思いや、ものとのらえ方、考え方、性格をよく知り、その人の意思を尊重したケアを心掛けています。又、利用者様について知り得た情報をスタッフ全員で共有し利用者様が安心・安全に生活出来るよう支援しています。ご家族とも密に連絡を取り合い生活の様子をお伝えしています。活動面では現在、様々な感染症の流行で思うように出来ていませんが、施設内で出来る料理教室や、季節に添った制作、季節ごとの行事など出来る範囲で行っています。利用者様にとって唯一の楽しみでもある食事は利用者様の好みや季節感を取り入れたメニューで栄養やバランスを考えながら心のこもった温かい食事の提供を心掛けています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「和・感謝・まごころ」の理念のもと、従来より家庭的で「暮らしをサポートする」と謳われた事業所での生活は、入居者と職員が共に過ごし、馴染みのある風景の中で穏やかな時間が流れています。この数年は感染症の流行や感染対策により様々な制限もありましたが、面会が可能である時期には家族へ連絡し来訪を促す等、家族との関わりも持ちながら共に支える取組みの様子がありました。日頃の生活でも事業所内でできる楽しみを考えた料理教室や催し、車内から季節を感じるドライブ等も行われていました。職員体制において、日替わりで担当する「リーダー」の役割は「入居者の傍で寄り添う」ことだそうです。このことから、日頃の入居者との関わりを感じる事業所でした。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のスタッフ会議(勉強会)で理念を読み上げ理念に沿ったケアができるか再確認している。又職員や訪問者の目のつく玄関とホールに掲示している	勉強会等での理念の唱和で職員への共有を図っている。理念である「和・感謝・まごころ」は事業所パンフレットや広報誌にも記載されており、家族や地域への啓発も継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症やインフルエンザなどの感染症拡大が懸念され地域とのつながりは困難であったが利用者の日常生活の状況は野の花通信をとおして地域の皆様に報告してきた。	この数年感染症対策により入居者と地域の日常的な交流は難しい状況であったが、地域の回覧板へ広報誌を入れて頂いたり、入居者の周辺の散歩等、生活の中での交流は継続したものである。地域清掃の際には、地域役員により事業所周辺の草刈りを協力頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花通信を2ヶ月に1回作成し南部田地区の回覧板に入れてもらい入居者にどのような支援を行っているか知っていただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大時は文書での報告を行ってきたが令和5年5月から運営推進会議を開催し、入居者の活動状況や状態報告、感染防止についての取り組みなど報告し意見を求めてきた。	昨年対面での会議を再開している。地域役員の交代や地域の高齢化等、情報交換の場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	支所からは運営推進会議への参加があり、定期的にホームを訪問され入居者の様子やホームの雰囲気を知ってもらい情報交換を行っている。	運営推進会議への参加は、市役所支所及び地域包括支援センターより一年交代で参加頂いている。会議の際には事業所の取組みを伝えると共に、市の情報や取組みの情報を得、意見を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での勉強会は未だ開催できていないが、年に1~2回身体拘束についての勉強会資料は配布され個人で確認している。又、月に1回母体施設で拘束廃止委員会を開催しており拘束についての弊害を理解するよう努めている。	法人全体の勉強会で年2回が予定されており、感染症対策により今年度は資料を基にした個人での確認であった。毎月法人にて身体拘束委員会が開催され、担当職員又は管理者が参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマにした勉強会を定期的に行い虐待防止に努めている。又、管理者は常日頃から職員の表情や入居者に対する態度、対応など目視し虐待につながらないように注意している。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修などで学んだ資料を皆で共有し勉強会をとおして学ぶよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分説明した上で疑問や不明な点などないかその都度確認し、わからないことがあれば、理解、納得ができるまで説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在も感染状況によって面会制限があり、未だ家族会議は行っていないが、面会できる時はご家族に面会を依頼し、入居者の日頃の状況を報告し意見を求め今後のケアに反映できるよう努めている	この数年の感染症対策により、拡大状況を検討しながら、方法を工夫して面会を受入れてきた。可能な時期には家族へ連絡し、面会を依頼し、できるだけ直接入居者の様子を見て頂き意見を得る機会作りに取り組んだ。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回スタッフ会議・勉強会を行っており、職員の意見やアイデアを出し合い討議し反映させている。又、解決が困難な事に関しては母体施設で開催されるリーダー会議に持ちかけ検討している。	毎月のスタッフ会議の他、普段から職員は管理者へ意見や提案を伝えることができる。内容に応じ管理者から法人へ報告し、検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が向上心をもって働ける環境作り、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を見極めその人に合った研修や資格取得を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、研修会、勉強会もオンラインとなり同業者と思うような交流は難しい状況であるが研修会で学んだ事を職場に反映しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに馴染むまでは接する機会を多くつくり、本人の思いや困り事、不安感、要望などに耳を傾け、知り得た情報を職員一同で共有し本人への対応を考え安心した暮らしが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの情報や要望、困り事を聞き利用者への接し方、対応を考え実践し、それによって利用者がどのような状態になっているか常に報告しながらケアの方向性をご家族と共に考えるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族としっかり話し、どのような暮らしを求めているのかを見極め、その暮らしに近づけるにはまず何が必要なのか考え実践に移す前に家族にも意見を求め対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者が出来る事、出来るような事を職員と一緒にすることで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時にご家族に電話で状況を報告し、面会制限がなければ来荘を依頼した。面会制限中は電話での対応を行った。又、ご家族の不幸があった際に最後のお別れが出来るよう支援した		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症拡大が懸念されるなか、なるべく他者との接触や外出活動を控えて来た為、できていない	ここ数年は感染症対策により外出や訪問による馴染みの人との交流は難しい状況であったが、今年度より季節の花見等、入居者に以前から馴染みのある場所への外出を再開している。家族との関係が疎遠にならないよう支援を継続した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や相性、習慣など見極め、利用者同士のトラブルが発生しないよう注意しながら良い関係性を築けるよう努めている。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、本人に必要と思われる支援について、ご家族に情報を与え相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話の出来る利用者に対してはソファーや自室でくつろいでおられる時に側に寄り添い本人の思いや希望を介護計画につなげている。困難な場合はご家族と相談しながら支援している。	現在は殆どの入居者が言葉や仕草等で意向を表すことができるため、日頃の寄り添いや関わりで把握している。思いを表すことが難しい入居者には、家族へも相談、意向を把握しながら支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供書やご本人、ご家族からの情報をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の表情や行動など常に観察しながら出来る事が継続できているか把握している。又、毎朝バイタルサインチェックを行い身体状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の話を聞きケアの方向性をい見出し、医療面では担当医と看護師、生活面では介護スタッフの意見を反映しながら介護計画を作成している	入居者・家族の意向や希望を随時確認し、日々の生活の様子や職員間の意見交換をもとにケアマネージャーが評価、3ヶ月に1回の介護計画見直しを基本としている。3ヶ月に一度の担当者会議では、入居者一人ひとりに対して検討項目・討議内容・討議結果が一覧化され、計画に沿った一年間の流れが共有できる仕組みとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきなどは個別記録に記入している。又、ケアの変更や気づき・緊急性のある事柄が発生した際はグループラインをとおして職員全員が早急に把握し意見交換ができる体制をつくっておりスタッフ会議で介護計画を見直す。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連事業所からの情報なども参考にし取り組んでいる。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	系列事業所などからの情報を得ながら出来る範囲の外出活動で少しでも利用者が楽しみを持てるよう努めているが感染症拡大の懸念があり、他施設訪問やボランティアなどとの接触は避けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在看護師がいない為、管理者が病院受診を行い利用者の状態報告を行っている。ご家族対応の受診や代理受診をされる際は先の受診から今回の受診に至るまでの状態や気づきを文書にして医師に報告している。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現状は往診・病院受診それぞれで、通院の際は家族の協力も得ながら管理者同行で受診している。隣接する法人施設の看護師は入居者のこれまでの生活を把握していることから随時相談もできる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師がいない為、日常生活の中での気づきなどは管理者へ直接情報が入るようにしており、管理者は利用者個々の情報や気づきを医師や看護師に伝えている。訪問診療がある利用者については介護職が直接伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、病院関係者と定期的に情報交換を行った。又、入院の際、個人についての注意点や施設での対応など事細かく情報を提供してきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看護師がいない為、当施設での看取りはできないが、早い段階でご家族に当施設で対応できる範囲を伝え今後、状態が悪化していった場合、どうしたいのかご家族の意思を確認し話を重ねている。	随時、重度化や終末期に向けた事業所の方針や対応等を家族にも伝えている。実際に体調悪化の際は家族にも意向を確認し、話し合いを重ねる。現状は隣接する特養等への住み替えを検討されるケースも多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急・急変時の対応に関する研修が法人全体で勉強会のテーマに含まれており年に1回資料が配付される。それを元に勉強会を行い再度確認している。(現在法人全体の勉強会は開催できていない)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練・年に1回地震・風水害の訓練を行い隣接事業所の協力も得ている。又、法人全体で災害時の対応に関する研修のテーマが取り組まれており資料の元確認している	年2回の火災訓練を継続しており、地震・洪水想定を想定し入居者参加のもと訓練を行っている。都度課題と改善方法も共有され、消防訓練時には、非常ベルの解除方法やスプリンクラー誤作動時の解除方法等も職員間で共有し再確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄面や入浴時など羞恥心への配慮を心掛けて携わるよう努めている。又、個々の性格や習慣についてトラブルが発生しても個人の人格を尊重した声掛け対応を行うよう努めている	「プライバシー」「介護現場でのプライバシー侵害の例」等をテーマに職員研修を受講している。守秘義務とプライバシーの大切さ、人と人との関係性を大切にできる場とできるよう法人全体で取り組んでいる。日頃の生活の中では、職員からの声掛けや入居者の心への配慮がある対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・食事・生活リハビリ・外出活動・レクなど全てにおいて本人の意思を尊重し支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・入浴など意思表示が出来る方には意思を尊重しなるべく本人の希望に添い本人のペースで過ごせるよう支援している。意思表示出来ない方には状態を見ながら対応を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時に身だしなみを行っている。自分で出来る方には起床後に洗面台へ誘導しおしゃれを楽しんでもらっている。又、外出時には本人の希望される上着を選び身だしなみも確認している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節感を取り入れたメニューで栄養面やバランスを考えながら食事を提供している。料理教室も定期的に実施しており一緒におやつ作りを楽しんでもらっている。	事業所内で職員による手作りの食事を提供しており、入居者の体調や食欲等、日々の変化に臨機応変に対応している。入居者も共におやつ等を手作りする料理教室は度々行われている。旬の食材の利用は調理担当職員の思いでもあり、季節感を大切に、入居者の味・食材の好みにも配慮した食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みと栄養バランスを考えた食事個々の状態に合わせた食事形態で提供している。又、食事が入らない時はラコールなどの高カロリー食品や果物などで補っている。水分は1日トータル1000ml以上を目標にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方には準備をした後声掛け促し、出来ない方には介助でおこなっている。又、自歯がある方に対しては歯磨きが十分でなければ磨きなおしを行っている。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はなるべくトイレで気持ち良くを念頭におき、訴えが無い方に対しては排泄パターンを把握し時間や水分量、気温など考慮し誘導を行っている。又、ソワソワ感や落ち着きがないなどのサインを見逃さないよう努めている。	できるだけトイレでの排泄を基本とした支援を行っており、日中は入居者のサインや排泄パターンを把握した声掛け等で誘導している。夜間は入居者に合わせた対応を行っている。全入居者に対し朝から陰部洗浄を行い、清潔保持にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保と野菜を多く使った食事を心掛けている。水分が入らない方には果物やバナナジュースなどで補っている。又、食後はなるべくトイレに座ってもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の前には声掛けを行いご本人の意思を確認してから入ってもらっている。身体機能の低下で浴槽に入るのが困難な方には足浴をしながらシャワー浴を行っている。	入居者の体調等にも配慮し、週2回以上の入浴を基本としている。できるだけ浴槽に入ることができるよう支援しているが、難しくなりシャワー浴となった際には足浴もしながら、心地よい入浴時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、個人の意思や身体状況に合わせて離床・臥床を行っている。ご高齢の方が多いので昼食後は14時までソファやベッドで横になってもらうよう促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の現病に伴う内服の種類、副作用や注意点など職員一同把握し服薬介助を行っている。又、それによっておこる小さな変化や症状にも注意し、何か変化があった時は医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリや制作など個々の性格や持っている能力を活かしながら支援している。感染症拡大で外出活動の月1回は困難であったが、荘内で出来る料理教室や運動会など催し気分転換を図った		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症拡大で思うような外出活動は出来なかったが、季節ごとに出かけていた場所へはなるべく出掛けた。又、入所して月が浅い利用者がどうしても家の事が気がかりな方がおられ、自宅の庭に時々お連れし安心してもらえるよう努めた。	近年気軽な外出は難しい状況であったが、季節毎のドライブ等、再開しはじめたところである。家族行事への参加や強い希望が見られた際には自宅への訪問等、個別の対応も行っている。	この数年は難しい状況だった様子が聞かれました。未だ感染症対策も必要ですが、可能となった際の検討も始めておられます。計画されている今後の取組みの実現に期待します。

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自身でお金を所持している方はいらっしゃらない。ホームでお預かりしている方で何か買いたいとの希望がある方にはその都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話の依頼があればすぐに対応している。現在、手紙やはがきを書ける利用者はいない。家族が他県におられる所は定期的に電話をかけて会話ができるよう支援している。又、携帯電話を所持している利用者もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系のライトを使用し、ほどよい生活音のする中でリラックスできる雰囲気作りを心掛けている。毎月季節に応じた制作を実施し、利用者の目に付く場所へ掲示し季節感を感じていただけるよう努めている。	事業所全体が穏やかな温かい雰囲気をもち、食事スペースとは別に設けられているリビングでは様々な椅子やソファが置かれ、関係性に配慮しながらも思い思いの場所で過ごす入居者の姿がある。日々の様子をおさめた写真も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用のソファや二人用のソファを置き自由に過ごせるようしている。又、性格の合わない利用者同士がトラブルにならないよう座る位置の配慮を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人を含め、家族と相談しながら、家具の配置や装飾をしている。又、なるべく以前から使用していた家具や生活用品の持ち込みを依頼し居心地の良い環境作りに努めている。	洗面台も備えられている居室には、生活用品も持ち込まれており、家族写真や贈られた花もみられ、家族の関わりを感じることができる。居室入り口にはのれんが掛けられておりプライバシーへの配慮もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は見てわかるように目印を作り、床はバリアフリーだが、障害物をなるべく取り除き安全に移動できるよう配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム野の花

作成日 令和 6年 3月 26日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		コロナ禍で出来ていなかった活動を少しずつ再開し地域との関わりをつくっていく	感染状況を見ながら、以前から行ってきた行事や外出活動の再開	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のバスハイク ・地域の催し物など無理のない範囲での参加 ・系列事業所との共同イベントの再会 	1 2 ヶ月
2		コロナ禍で面会制限が続 き、ご家族との意見交換ができておらず、ご家族の思いや考えをケアに反映できているのかわからない	入居者個人へのよりよいケアの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を見ながら家族会を再開する ・県外に在住されているご家族には3ヶ月に1回の割合で意見を求める 	1 2 ヶ月
3		看護師の配置がなくなった事で医療面や健康面での不安を感じているご家族がいる	入居者の日常生活の様子や身体状況がわかりやすいようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・病院受診への同行を依頼する。同行出来ない時はその都度、受診内容を報告する ・日常生活の様子を最低でも月に1回は報告する 	1 2 ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。